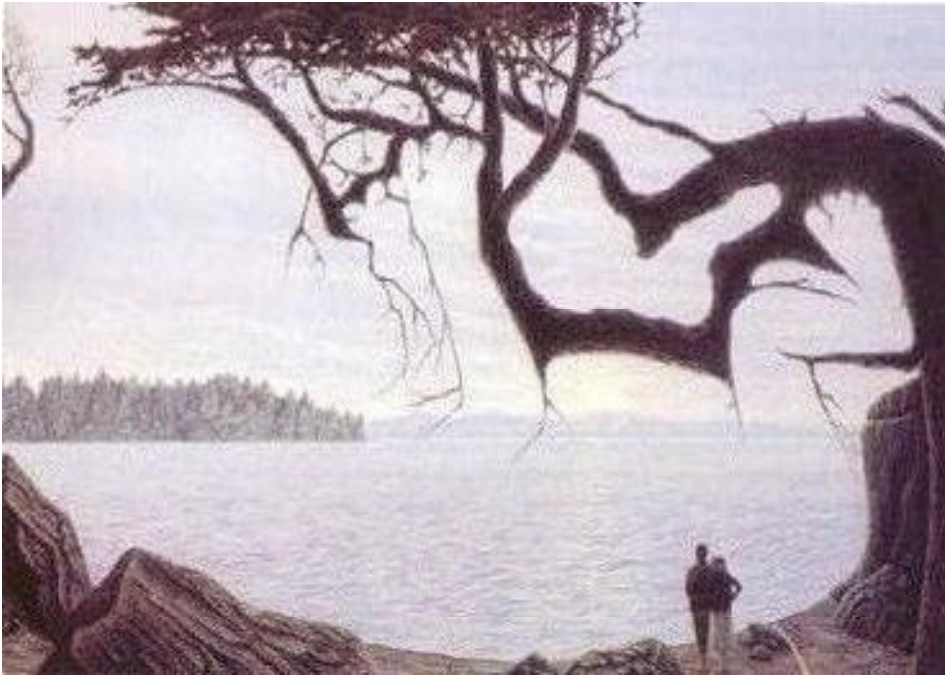


見つけよう、もう一つの姿を

境川中学校 一年一組 田中啓太



見方というのは、たいへん不思議ですばらしいものだ。見方を変えることにより、見えてくるものが変わってくる。

左の図を見てみよう。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。じつと見てみると、右上に大きな木が一本ある。その下に男性と女性が手をつないで、湖などの景色を見ている絵だと見てとることができるはずだ。

このとき、周りの景色などの絵は背景に過ぎない。今度は逆に、さっきの絵の背景に注目してみよう。大きな木と湖の間には、生まれる前の赤ちゃんが見えるだろう。

この図の場合、一つの絵と見てとることができ、別の見方をすると、さっきまでの絵が消え、

もう一つの絵に見えてしまう。

このようなことは、日常生活でもよく経験する。例えば、空を見上げると、たくさん雲がある。そこにある一つの雲に注目してみると、これもやっぱり普通の雲だ。しかし、見方を変えることにより、変な顔をした人にも見えてくる。このように、同じ図、風景を見ても、見方や角度を変えることで、全く違う図、風景に変わるものである。

左の図はどうであろうか。黒い部分に注目して見ると、右側を向いて口を少し開けた鳥と見る人もいれば、鳥のくちばしが耳になり、なんともかわいいウサギと見てとる人もいるだろう。

これらのように、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違ってくる。そこで、ものを見るとときには、中心に見るものを変えたり、角度や距離を変えたりして見れば、発見や驚きなどでとてもおもしろいだろう。

